学校法人東京神学大学 2025 年度事業報告書

Ⅰ　法人の概要

１．設置する大学と建学の精神

学校法人東京神学大学は、神学部神学科の学部、並びに組織神学専攻と聖書神学専攻を擁する大学院（博士課程前期、後期課程）を設置しています。これに併せて総合研究所（日本伝道研究所並びにアジア伝道研究所）を付設しています。2025 年度の入学定員は学部 5 名、別途 3 年編入学定員 20 名で、学部総定員は 60 名、大学院博士課程前期課程入学定員は聖書神学専攻 10 名、組織神学専攻 15 名で合計 50 名、博士課程後期課程入学定員は各専攻 2 名で合計 12 名、大学院総定員は 62 名です。2025 年度の学生数は学部 36 名、大学院 37 名（博士前期 24 名、博士後期 13 名）、計 73 名（2025 年 5 月 1 日現在）。

本学は、福音主義のキリスト教神学を研究し、福音の宣教に従事する教役者（牧師、キリスト教学校の聖書科教員などの伝道者）を養成すること、特に日本基督教団の教職者の養成と神学的指導の使命を担うことを「建学の精神」としています。これによって教育と事業を貫く「基本理念」を以下のように表明しています。「東京神学大学は日本基督教団の教職養成の責を担うものであるが、それとともに合同教会としての教団の世界教会的理想に従い、より広く日本の諸教会、アジアの諸教会の教職養成に貢献し、かくして日本の宣教と世界教会の宣教とに奉仕しようとするものである。」

2025 年度学生数

2025 年 5 月 1 日現在

区分	学　年	学生数	内訳		収容定員	充足率
		合　計	男	女		
学部	1 年	3	2	1	5	60.0%
	2 年	3	2	1	5	60.0%
	3 年	7	2	5	25	28.0%
	4 年	23	14	9	25	92.0%
	合計	**36**	**20**	**16**	**60**	**60.0%**
大学院	前期課程 1 年	10	6	4	25	40.0%
	前期課程 2 年	14	9	5	25	56.0%
	小計	**24**	**15**	**9**	**50**	**48.0%**
	後期課程 1 年	1	1	0	4	25.0%
	後期課程 2 年	1	1	0	4	25.0%
	後期課程 3 年	11	8	3	4	275.0%
	小計	**13**	**10**	**3**	**12**	**108.3%**
	合計	**37**	**25**	**12**	**62**	**59.7%**
総合計		**73**	**45**	**28**	**122**	**59.8%**

２．東京神学大学の沿革

東京神学大学は、日本基督教団の成立に併行して、福音主義キリスト教各派の神学機関を統合しながら成立し、この成立史とそこから生じる使命のゆえに「教団立神学校」として、今日に至っております。成立の経緯の概要は以下の通りです。

1859（安政 06）年　プロテスタント諸教会の宣教師たちが日本で宣教を始める。
1872（明治 05）年　横浜に最初の教会「日本基督公会」が設立される。
1873（明治 06）年　宣教師のＳ・ブラウンが横浜に最初の神学塾「ブラウン塾」を開校。
1877（明治 10）年　「東京一致神学校」（後の明治学院）開校。
1904（明治 37）年　植村正久牧師により「東京神学社」設立。
1930（昭和 05）年　本学の前身「日本神学校」が設立され、「明治学院神学部」が合流。
1941（昭和 16）年　プロテスタント諸教派の合同教団として日本基督教団設立。
1943（昭和 18）年　教派ごとに分かれていた 15 の神学校が「日本東部神学校」・「日本西部神学校」・「日本女子神学校」の 3 校に統合される。
1944（昭和 19）年　「日本東部神学校」・「日本西部神学校」が、さらに「日本基督教神学専門学校」として合流。
1945（昭和 20）年　「日本女子神学校」の後身「日本基督教女子神学専門学校」も「日本基督教神学専門学校」に合流。
1949（昭和 24）年　新制度による大学として「東京神学大学」となる。
1951（昭和 26）年　私立学校法の公布に伴い「学校法人東京神学大学」に組織変更。千代田区富士見町から三鷹市牟礼に移転。
1966（昭和 41）年　三鷹市牟礼から現在地（三鷹市大沢）に移転。
1968（昭和 43）年　本館東部部分を増築。
1986（昭和 61）年　本館から独立させて図書館棟を建設。
2011（平成 23）年　韓国イエス教長老会神学大学校と相互協力協定を結ぶ。
2020（令和 2）年　教員住宅を更新。
2021（令和 3）年　学生寮を更新。

３．役員・教職員の概要（2026 年 3 月 31 日現在）

(1) 理事（18 名）

理事長	藤掛　順一	理　事	嶋田　順好
学長理事	神代真砂実	〃	松井　睦
財務理事	髙橋　潤	〃	河田　直子
常務理事	黒沼　健	〃	REEDY, David
〃	安藤　良一	〃	小山　美弥
〃	東野　尚志	〃	山畑　謙
〃	渡部　満	〃	古屋　治雄
〃	小林　克彦	〃	岡村　恒
理　事	長山　信夫	〃	黒米　理恵

(2) 監事（2 名）

監　事	市川　一宏
〃	齋藤　孝

(3) **評議員（20名）**

評議員	田中かおる	評議員	藤井清邦
〃	服部　修	〃	瀬谷　寛
〃	武田真治	〃	小泉　健
〃	真壁　巌	〃	須田　拓
〃	佐治範子	〃	井ノ川　勝
〃	郷田　敬	〃	小堀康彦
〃	望月　修	〃	渡邊義彦
〃	岩田昌路	〃	土橋正文
〃	福島純夫	〃	戸塚智之
〃	A.キスト岡崎	〃	網谷道穂

(4) **教育職員（14名）**

学長	神代真砂実	准教授	本城仰太
教授	中野　実	常勤講師	宮嵜　薫
〃	W.ジャンセン	特任教授	芳賀　力
〃	小泉　健	特任准教授	河野克也
〃	須田　拓	〃	山口希生
〃	長山　道	特任常勤講師	矢田洋子
〃	田中　光	助教	飯田　仰

(5) **事務職員（13名）**

Ⅱ　事業の概要

2025 年度は、学部入学者が 10 名と志願者数が大きく減少し、また特に日本基督教団の教会からの入学者が 5 名と非常に少なく、これからの伝道のためにさらなる献身の呼びかけが急務であること、そして他教派からの献身者も広く受け入れつつ、日本基督教団立の神学校として、日本基督教団の諸教会と連携して献身者が興されるように祈りを深める必要を改めて思わせられた一年となった。ここに、本学の教育・事業の進捗状況や主たる改革努力について事業の概要を報告する。

１．教育理念・目的および教育内容・方法・成果にかかわること

本学は、寄附行為前文、また学則に規定されているように、伝道献身者の養成を目的とし、そのための教育体制を整えている。しかし、2017 年度より神学研修志望枠を設けて、信徒として教会やキリスト教学校、キリスト教施設等を支えようとする方々にも学部の学びを開放し、そのような広義の伝道者の養成も使命と捉えるようになった。2025 年度には、この枠で 1 名が入学した。神学研修志望枠での入学者には、従来の伝道献身者枠への志望の変更が認められている。2025 年度には、志望変更志願者はなかった。

また、伝道献身者を育成するという一つの目的の下で、学部と大学院それぞれの教育の果たすべき役割を明確にすべく、それぞれの学則に、学部と大学院それぞれの目的を記載すると共に、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの３つのポリシーを公表している。学部のディプロマポリシーについては、神学研修志望枠の学生にも当てはまる表現となるように 2024 年度より改定した。また、学修成果の多様な測定指標の策定が求められる中にあって、アセスメントポリシーを策定しているが、年度末には、昨年度・一昨年度に引き続き、アセスメントポリシーに基づく機関レベル及び教育課程レベルの検証を教授会において行い、その検証結果はホームページで公開することになっている。

学部の入学者減少に伴い、博士課程前期課程の学生数が減少していることから、収容定員を適正化するため、2024 年度より聖書神学専攻の入学定員を 15 名から 10 名に削減した。また、既に日本基督教団以外の教派の牧師である者が更なる学びのために博士課程前期課程への入学を志望するケースが見られることから、教会に牧師として仕えながら博士課程前期課程の学びをすることができるよう、博士課程前期課程にも長期履修制度を導入した。2025 年度は 1 名がこの長期履修制度への切り替えを申し出、認められた。

博士課程後期課程については生産性の向上が課題であり、様々な改革を進めてきた。2021 年度、2022 年度、2024 年度に各 1 名ずつ論文博士による学位の授与を行ったが、課程博士については 2018 年度に通算 3 例目を授与して以来、授与者がない状態が続いている。牧師として任地へ赴き牧会をしながら、あるいは他大学でキリスト教関係科目の教育を担当しながらの研究となるため、長期履修制度等の活用による生産性の向上が期待されるが、さらに十分な研究時間を確保して学び続けることができるよう、制度改革や支援の拡充が必要である。従来、博士課程後期課程在籍中の研究と指導の成果として論文を書き上げながらも、わずかに在籍可能年限を超えたために課程博士ではなく論文博士となったケースについて課程博士を授与できるようにするために、2024 年度より、博士論文以外の全ての修了要件を満たした場合に研究指導認定を行い、その認定を受けて 1 学期以上の在籍可能期間を残して退学、3 年以内（長期履修制度利用の場合は 1 年以内）に再入学して論文を提出することのできる制度改革を行っているが、2025 年度はこの制度を使って研究指導認定退学をした者はいなかった。また、1 名が 2025 年度末で履修期間満了となった。

２．教育研究組織および教員・教育組織にかかわること

a. 授業担当者能力養成（FD）

本年度も、前期・後期にわたり科目を選択して交代させながら、学部と大学院双方で,授業効果調査アンケートを行い、それらの調査結果を授業担当者全員に開示すると共に、前期については、アンケート結果に基づく授業改善計画の提出を専任教員に求めた。

また、FD 活動の一環として、また、本学の研究倫理規程の内容を教授会メンバー全員で確認し、引き続き遵守することを申し合わせると共に、2026 年 3 月 11 日に、特任教員を含む全教員が集まって、共通評価指標に基づく成績評価についての FD、及び修士課程の教育課程について話し合う形での大学院 FD の研修を行った。また、SD として、8 月に基幹教員制度について、3 月に 2026 年度に導入される成績の不服申立制度に関する研修を行っている。

b. 大学院博士課程後期課程研究発表会

2025 年 6 月 17 日の一般時間に、大学院博士課程後期課程研究発表会を開催した。本年度は、博士課程後期課程在学の平澤 巧氏（組織神学）が 2 度目の研究発表を行った。

c. 日本伝道研究所主催講演会

日本伝道研究所の活動を活発化させるべく、日本伝道研究所主催の講演会を年 1 回開催している。2025 年度は 12 月 2 日に西谷幸介先生（戸山教会牧師、元青山学院大学教授）により、「日本教の霊性：母子愛――私の日本人論探究」をテーマとする講演が行われた。

d. 教員・教育組織

2024 年度に宮嵜薫特任常勤講師（旧約聖書神学）に博士学位が授与され、それを受けて 2025 年度から新たに常勤講師に任用された。教育職員の定数 14 名が確保されている。

また、2026 年度より組織神学部門に助教を 1 名任用することを目指して交渉を進めた。それに伴い、これまで特任教授としてお働きくださった芳賀　力特任教授は非常勤講師として授業を担当いただくことになる。

なお、2026 年度からの編入学定員変更を行う関係で、2026 年度から学部については基幹教員制度に移行することになり、2025 年度はその準備を行った。

３．学生の受け入れにかかわること

a. 新入学生の動向

2025年度　入学者数

（単位：人）

学年区分	入試区分	男	女	計
G1	一般入試	1	1	2
	指定校推薦編入試	1	0	1
G2	編入学	1	0	1
G3	編入学	2	4	6
学部　計		5	5	10
M1	一般入試	1	1	2
	内部入試	5	3	8
	小計	6	4	10
D1	一般入試	0	0	0
	内部入試	1	0	1
	小計	1	0	1
大学院　計		7	4	11
総　　計		12	9	21

2025年度は、神学部・神学科1年次に3名、同2年次に1名、同3年次に6名、学部としては合計10名の入学者を迎えた。なお、このうち1名は神学研修志望による入学である。全体としては献身者の数が大幅に不足している。大学としての定員充足の問題にまして、諸教会・学校に伝道者を送り出す使命を果たすために、献身者を呼び起こし、学生を受け入れる不断の努力が今後も必要である。

なお、2025年度の入学者減少により、2026年度からの学部の編入学定員を20名から12名に削減する手続きを行った。

b. 高校生会、青年の集い、オープンキャンパス行事など

① 高校生会には、毎年、首都圏の諸教会から高校生が集まるが、コロナ禍にあっては新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となっていた。コロナ禍以後は、参加者が少なく中止が続いたので、プログラム等の見直しを行っている。

② 本学と発起人教会によって行われている「日本伝道を担う青年の集い」は、毎年9月に本学で開催されるが、2025年度は対面で、従来のプログラムから少し変更を加えて開催した。まず青山学院大学の左近豊牧師の礼拝説教をささげて、W・ジャンセン教授による発題講演が行われ、立食形式での昼食の後、グループごとの交わりの時を持ち、最後に乾元美牧師（神戸神愛教会）、山田詩郎牧師（名古屋北教会）の証しによる礼拝を守った。全体で100名、内学外から53名の参加があり、そのうち5名が受験相談をした。

③ 「オープンキャンパス」は、2025年12月6日に実施され、学外からは28名（うち1名はオンライン）の参加があった。そのうち受験相談には13名が参加した。こうした地道な努力が中長期的に本学の志願者増大へと結びつくよう期待している。

④ 青年の集いやオープンキャンパスの終了後の受験相談は確実に受験に結びついている一方で、入学志願者への働きかけとしては時期が遅いとの指摘があったため、数年前から、より早い時期に「入試説明会」を行っている。2025年度は7月19日に開催された。17名の参加者があり、13名から受験相談を受けた。

⑤ 2013年度より「神学生派遣プログラム」として、全国の教会やキリスト教学校に学生を派遣し、献身の喜びを語ってもらうようにしている。2025年度は19名が18校に派遣された。

⑥ 2025年6月21日～29日、教文館のご厚意で、教文館において「東神大フェア」を開催した。開催中に3名の入試相談を受けた。

⑦ 2025年度は初めての試みとして、全5回の授業について体験授業として、東神大に関心を持ってくださる方の参加を受け入れた。9名の参加があった。

c. 広報におけるSNSの利用

広報委員会の主導の下、SNS運用規程に従って、広報活動にYouTubeやInstagram, LINE等のSNSを積極的に使用すべく努めている。特に、YouTubeにできるだけ学校を紹介する動画をアップロードし、また入試広報にLINEを活用するようにしている。

4．学生支援にかかわること

a. 障がい者への配慮

2024年度入学者の中に、強度の日光アレルギーを持つ者があり、入学者選抜においても入学後の授業や諸行事においても、使用する教室に暗幕・遮光カーテンを張ることで対応している。また、図書館においては閲覧室のブラインドを閉め切って遮光することとし、当該学生が常時、図書館を利用できるようにした。

障害者差別解消法の施行により設置された自動ドア、エレベーターなどは、病気やけがを抱え、移動が困難な学生たちにとっても大きな助けとなっている。

b. 学内モラルの向上プログラム

2015 年以来毎年 4 月に行っている神学校全学集会では、本学を構成するすべての者たちが召命共同体として自覚を持ち、使命感を明確にして共に学校生活を形作っていくための大切な機会となっている。2025 年度は、その神学校全学集会において、学習倫理・研究倫理についても扱われた。また、伝道者養成のために学問としての神学を学ぶだけでなく、生活全体を献身者として整えていけるように「生活倫理講座」を行っている。なお、本年度から、新入生については、これに 4 月実施のクラス別懇談会、「レポートの書き方」の講義、さらに 10 月実施の「霊的生活の形成」、「東京神学大学を知る」の講義を加えた初年次教育を行い、神学生としての基盤を作っている。

c. 夏期伝道実習および神学生出席教会の牧師との懇談会

2025 年度は 8 月 3 日〜8 月 31 日に、夏期伝道実習として各地に実習生を派遣した。実習生は、学部 4 年生 16 名、大学院修士課程 1 年生 8 名合計 24 名であった。秋には、実習先教会牧師の報告書と実習生の報告をもとにして、教会実習委員会の教員が実習生と面談した。そこでさまざまな課題を共に話し合い、今後の大学と出席教会における学生の訓練の生活に役立てるように話し合いの時を持った。

神学生が出席している教会の牧師と教授会との懇談会を後期始業式の後に行ってきているが、2025 年度は出欠のはがきを利用して近況報告を書いていただくと共に、9 月 16 日に懇談会を実施した。

d. 留学生との懇談会

毎年、留学生全員と教授会メンバーとで懇談会を持っている。留学生の一人一人が学びや生活の状況を話し、またあまりかかわりのない教員とも交流を持つ機会となっている。2025 年度は 2025 年 10 月 7 日に対面で実施し、留学生委員の教員と 5 名の留学生が参加した。

e. 卒業予定者の就職状況

2025 年度は、大学院修士課程前期 2 年生の修了者 11 名・単位取得者 1 名、学部で学びを終えて卒業した者は 5 名、計 17 名が巣立っていった。大学院で学んだ 12 名のうち、3 名は他教派からお預かりした人であった。残りの 9 名はいずれも日本基督教団の教会に遣わされて行った。

５．社会連帯・社会貢献にかかわること

a. 韓国の長老会神学大学校との交換教授プログラム

2025 年度は 11 月 17 日(月)から 20 日(木)まで、長老会神学大学校の高元錫教授が来日して行われた。講演と授業、チャペルでの説教を行った。

b. 学校伝道協議会

2025 年 5 月 17 日に第 26 回キリスト教学校伝道協議会を対面とオンラインで開催した。主題「キリスト教学校の担い手を育む」、対面とオンライン併せて 83 名の参加（うちオンライン 16 名）があった。

c. 日本伝道フォーラムおよび東京神学大学後援会公開講演会活動

① 日本伝道フォーラムについては、2025 年度は久しぶりに対面で開催した。

② 2025 年度は全国 28 地区の東京神学大学後援会が公開講演会を行い、延べ 218 教会、1005 人が参加した。2020 年度以来、新型コロナウイルスの感染拡大により講演会を行うことができずにいた地区も、徐々に再開していている。

d. 教職セミナー

2026 年 1 月 6 日～8 日、国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に第 54 回教職セミナーが開催された。主題は「祈り」で、田中光教授が主題講演を担当した。田中光教授による主題講演と旧約、新約、歴史、実践の神学各分野からの発題、さらに石丸昌彦先生による特別講演がなされ、学外の教職 79 名を迎え、学内の教職員、大学院前期課程修了予定者を合わせ、計 101 名が参加した。

e. 東京神学大学公開夜間神学講座

本講座は、敗戦後まもなくに創設された長い伝統をもつ、信徒のためのユニークな神学講座である。毎週 2 回（月・金曜日：午後 6:00～8:00）、2021 年度からは銀座教会 5 階会議室で開催されている。各年度は 3 学期に分かれ、神学入門、旧約聖書、新約聖書、組織神学、歴史神学、実践神学、キリスト教美術やキリスト教音楽などを講師から学ぶ。講師 10 名のうち 7 名が本学教員である。2 年間で全 20 講座を修了する正規生に加え、科目受講生、聴講生の制度もある。

2025 年度は定員制（30 名）とし、79 期生 2 名と新たに科目受講生 5 名を迎え、銀座教会 5 階会議室を会場に、すべての講座を対面で実施した。夜間講座担当牧師である山下泰嗣牧師（江戸川松江教会）が毎回の講座を支えてくださっている。

また、いくつかの教会をサテライトとし、10 講座中 4 講座において、試験的にオンラインでの受講を行い、オンライン受講会場での調整や配信・受信状況の確認を行った。さらに今後の展開を検討している。

2025 年度も 8 月末に東京神学大学を会場にして 1 日の夏期研修会を開催した。田中光教授（旧約聖書神学）を講師に迎え「旧約聖書における老いとその先にある希望」という主題で学びと懇親の時をもった（参加者 38 名）。なお、オンラインでの試験配信も行った。

また、2023 年度より銀座教会にてクリスマス礼拝も再開し、2025 年度は野村なるみ牧師（教団無任所教師）より説教を賜り、礼拝後には長山道学外活動委員長とも共に茶菓をいただいての交わりの機会をもった（参加者 25 名）。

なお、2025 年度の修了者は、正規生（78 期生）2 名であった。

６．内部質保証（自己点検評価）にかかわること

2013 年 7 月に本学の「内部質保証向上委員会」が設置され、本学における内部質保証体制に責任を持つことになった。2018 年度にその規程等が整備され、2019 年度からは、内部質保証向上委員会を中心とした内部質保証体制を実質化させた。2025 年度は、2026 年度が大学基準協会による認証評価の年となることから、その準備がなされると共に、2026 年度から編入学定員を削減することに伴い、文部科学省より基幹教員制度への移行を求められたことから、基幹教員制度を導入するための準備として、主要授業科目の設定や教育課程編成会議の設置、諸規則の改定等を行った。また、自己点検評価や理事会・評議員会の懇談会における提言、神学校生活懇談会、卒業時アンケート結果などを踏まえ、改善すべき課題が内部質保証向上委員会から特別教授会に報告・提言され、各部署や教授会で検討され、成績についての不服申立制度の制定、教員の任用・昇進の客観的基準の策定、教職課程の自己点検評価等がなされた。また、昨年度からの課題としてヒブル語必修化の検討がなされたが、ヒブル語の授業を学部と大学院の共通授業とすることで、学部で履修しなかった学生に大学院での履修を勧めることになった。2026 年度からは、ヒブル語とラテン語が、学部と大学院の共通授業となる。

７．施設や設備に関する主たる事業について

a. ポスト・コロナ禍の対応

2025 年度は引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、本館・学生寮の出入口にアルコール消毒液を設置している。

図書館において、2025 年度は感染対策をほぼ終了した。但し、学内でも散発的に感染者が派生したことから、情報収集と利用者への注意喚起を行い、特に図書館関連の団体及び機関からの感染対策についての連絡事項に注意を払った。利用者には閲覧室内と書庫内において適度な距離を取って利用することを促した。なお、コロナ禍の際に停止していた延長開館を 2024 年度に引き続いて 2025 年度も再開した（授業実施期間）。

b. オンライン環境の活用

2020 年度以来の新型コロナウイルス感染症の拡大状況下にあって、神学教育は単に知識を伝達することに留まらず、伝道者としての人格が形成されることが重要であることに鑑みて、当初、本学は完全オンライン授業とするのではなく、対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド授業を行い、2021 年度以降は原則として対面で授業を実施してきた。

2025 年度も引き続き、病気療養中の教員による授業や、主に非常勤講師の担当する授業について本務校からの要請等やむを得ない場合に限り、Cisco Webex を利用したオンライン授業を併用すると共に、入試説明会やキリスト教学校伝道協議会は、対面での実施を主としつつ、オンラインを併用した。

オンライン授業を実施するにあたり、図書館所蔵資料などを利用する場合に「授業目的公衆送信補償金制度」を適切に運用するため、授業目的公衆送信補償金として聴講生等を含む学生総数（82 名）及び公開講座等分の手当てを行った。

図書館資料に関しては、出版界における電子資料への切り替えが加速度的に進んでいることから、外部資金の積極的な活用を含めた導入と運用について引き続き検討を続けていく。

c. 本館東側の Wi-Fi 環境整備および学内 LAN ネットワーク機器のリプレース

8 月に本館東側 2 階（教員研究室）および 1 階旧会議室に Wi-Fi ネットワークのアクセスポイントを設置して Wi-Fi が利用可能な範囲を拡張した。

学内 LAN のネットワーク機器について、10 月にファイアウォール機器、1 月にスイッチ機器をリプレースした。

d. SNS の活用

Instagram と LINE の利用について、昨年度に引き続き、行事や入試関連のお知らせに活用した。また、YouTube では教員紹介動画などを掲載した。

e. 主な修繕工事

① 照明器具を LED に交換した。2025 年度は、本館２階通路（27 箇所）を LED 化した。

② 礼拝堂にエアコンを設置した。

f. キャンパス整備事業

2019 年度に教員住宅が、2021 年度に学生寮が完成し、供用を開始している。研修センターの建設は学生数減少に伴う減収を危惧し、資金計画に目途がつくまで一旦中止とした。2025 年度もその方針を維持した。

g. 図書館システムのリプレース

2025 年度は図書館システム一式のリプレースを実施した。これは 5 年毎を目安に行っており、図書館システムの製造元が納入後５年以上経過したハードウェア及びソフトウェアの保守サービスの維持については、主に技術的な面から延長が困難であるとの方針を取っていることによる。技術的進歩の点からも、機器の消耗劣化などによるリスク発生の点からも妥当な年数と考えられ、システム運用の維持や障害時に十分な対応ができずに大きな

リスクを抱えることを避けるためにも、今回のシステム・リプレースに取り組んだ。

８．主たる行事

(1) 4 月 1 日　入学式・前期始業式
式　　辞：神代真砂実学長
始業講演：中　止
(2) 4 月 1 日～3 日　新入生・新編入生オリエンテーション
(3) 4 月 4 日　公開夜間神学講座　開講式・神学入門　銀座教会
(4) 4 月 5 日　前期授業開始
(5) 4 月 7 日　公開夜間神学講座 1 学期開始　銀座教会
(6) 4 月 15 日　神学校全学集会
(7) 4 月 16 日　クラス別懇談会
(8) 5 月 12 日～13 日　同期研修会
(9) 5 月 13 日　全学懇談会
(10) 5 月 17 日　キリスト教学校伝道協議会
主　題：「キリスト教学校の担い手を育む　－後継者養成を巡って－」
(11) 5 月 20 日　前期学生総会
(12) 5 月 30 日　運動会
(13) 6 月 2 日～3 日　日本伝道フォーラム「これからの教会と日本基督教団」
(14) 6 月 10 日　全学祈祷会
(15) 6 月 17 日　博士課程後期課程研究発表会
(16) 7 月 8 日　夏期伝道実習オリエンテーション
(17) 7 月 15 日　夏期伝道実習壮行祈祷会　説教：石井佑二牧師（遠州教会）
(18) 7 月 19 日　入試説明会
(19) 7 月 29 日　前期授業最終日
(20) 8 月 2 日　夏期休業開始
(21) 8 月 3 日～31 日　夏期伝道実習期間
(22) 9 月 1 日　公開夜間神学講座　２学期開始
(23) 9 月 12 日　大学院修士論文提出締切
(24) 9 月 16 日　後期始業式、始業講演：「旧約聖書とエジプト」宮嵜　薫常勤講師
午後：神学生出席教会牧師と教授会との懇談会
(25) 9 月 17 日　後期授業開始
(26) 9 月 27 日　日本伝道を担う青年の集い
(27) 9 月 30 日　夏期伝道実習報告会
(28) 10 月 17 日～24 日　11 月入学者選抜願書受付期間
(29) 10 月 21 日　全学修養会基調講演Ⅰ　講演：髙橋　潤牧師（銀座教会）
(30) 10 月 28 日　全学修養会基調講演Ⅱ　講演：荒瀬牧彦牧師
（カンバーランド長老キリスト教会田園教会）
(31) 11 月 4 日～5 日　全学修養会　講師：雲然俊美牧師（教団議長、秋田桜教会）
(32) 11 月 24 日　11 月入学者選抜実施日
(33) 11 月 26 日　11 月入学者選抜合格発表
(34) 12 月 2 日　日本伝道研究所主催講演会　講演：西谷幸介牧師（戸山教会）
(35) 12 月 3 日　修士論文合格発表
(36) 12 月 6 日　オープンキャンパス
(37) 12 月 12 日　クリスマス礼拝　説教：真壁 巌牧師（西千葉教会）

(38) 12 月 13 日　冬期休業開始

(39) 1 月 6 日～8 日　第 54 回教職セミナー（国立オリンピック記念青少年総合センター）
主題「祈り」　主題講演：田中　光教授
(40) 1 月 6 日～13 日　2 月入学者選抜願書受付期間
(41) 1 月 10 日　後期授業再開
(42) 1 月 13 日　第 2 回全学祈祷会
(43) 1 月 20 日　後期学生総会
(44) 1 月 27 日～2 月 3 日　3 月入学者選抜願書受付期間
(45) 2 月 4 日　後期授業最終日
(46) 2 月 10 日～11 日　2 月入学者選抜実施日
(47) 2 月 13 日　2 月入学者選抜合格発表
(48) 2 月 27 日　2025 年度大学院前期課程修了者、学部卒業者発表
(49) 3 月 3 日　3 月入学者選抜実施日
(50) 3 月 5 日　3 月入学者選抜合格発表
(51) 3 月 5 日　卒業礼拝　説教：古屋治雄牧師（阿佐ヶ谷教会）
(52) 3 月 6 日　卒業・修了式　励ましの辞：雲然俊美牧師（教団議長、秋田桜教会）
深谷春男牧師（新宿西教会）
(53) 3 月 13 日　公開夜間神学講座 修了式